

自ら学習を進めることのできる児童の育成

㊦ 天子田小
苗代小

御器所小
表山小

千音寺小

1 研究のねらい

私たちは、自ら学習を進めることのできる児童を育てたい。本研究における、自ら学習を進めることのできる児童とは、単元全体や授業の初めに明らかになった課題に対して、どのように学習を進めていけばよいか見通しをもち、自分に合った方法で学習を進めていくことのできる児童のことである。このような自ら学習を進める力は、グローバル化の進展や技術革新等により、急速に変化するこれからの社会を自ら切り拓いていくために必要であると考えます。

本グループの学級の授業の様子で、退屈そうにしていたり、分からない問題に対して投げ出してしまったりする児童の姿が見られ、自ら学習に取り組んでいるとは言い難い様子が見られた。これは、児童に対して一方的に課題を与え、児童に見通しをもたせることなく解決を促すような授業を進めていたことに問題があったと考える。また、学習の習熟度が児童によって異なるにもかかわらず、一斉に同じような方法で学習に取り組ませていたことも問題であったと考える。

そこで、本研究では、次のような手立てを講じることで、自ら学習を進めることができる児童に迫るようにしたい。

2 研究の手立て

- ・ 課題解決チャートに課題解決のために必要な考え方をグループで三つのステップに分けて表させることで、筋道を立てて考えることができるようにする。
- ・ 児童に単元の学習内容の習得を目指した単元進度表（この単元ではどのようなことを学ぶのか、単元の課題は何か）を示すことで、見通しをもって学習を進めることができるようにする。
- ・ 自分に合った学習方法や教材を自分で決めて取り組ませることで、自ら学習を進めることができるようにする。

3 実践の内容（実践例1～5参照）

4 実践のまとめ

本研究では、自ら学習を進めることのできる児童の育成を目指して、三つの手立てを講じてきた。その結果、授業の初めに明らかになった課題を解決するために、学級で作り上げた課題解決チャートを振り返りながら自ら解き進める姿や、単元進度表を振り返りながら、問題を解決しようとする姿、自分に合った学習方法で生き生きと学習に取り組む姿が見られるようになった。また、これまで退屈そうにしていたり、分からない問題に対して投げ出してしまったりしていた児童の姿が減ってきたことから、これらの手立ては自ら学習を進めることができる児童を育てるために有効であったと考えられる。しかし、課題解決チャートを学級で作る際に、時間がかかりすぎてしまったり、単元進度表の中の学習の振り返りの記述が、「できた」「できなかった」のように感想だけになってしまい、次時の見通しにつながらなかったり、理解の難しい児童に教師がつき切りになってしまったりするなどの課題が見られた。また、自分に合った学習方法や教材を自分で決めて取り組む際には、自分の習熟度に合っていないものを選んでしまったり、活動時間が十分に確保できなかつたりするなどの課題が見られた。本研究で学んだことを基に、今後も研究を重ねていきたい。

【実践例1】単元3年「あまりのあるわり算」(本時1/8)

- (1) 本時の目標 余りのあるわり算の問題を解くことができる。
- (2) 手立て

課題を解決するためにどうしたらよいかを学級で話し合い、学級全体で課題を解決する手順を三つのステップに分けて、課題解決チャートにまとめる。課題解決チャートを活用することで、適用題に取り組むことができるようにする。

(3) 実践の様子

T: あまりの数が出てしまうわり算はどうやって考えていったらいいかな?

C1: まず出来るところまでわり算をしないといけない。

C2: わる数の九九をしていって、九九の答えが近いところで止める。

T: 近いところってどこだろう。

C1: わられる数に近い数字のこと。

C2: でも、割られる数より九九の答えが大きくなったらいけないから、割られる数より大きくなる前で止める。

T: あまりはどうやったら分かるのかな?

C1: 割られる数から、超えないギリギリまで求めた九九の答えを引くといい。

T: では今までに出てきたことを課題解決チャートにまとめましょう。
(その後、課題解決チャートを活用して、適用問題に取り組んだ。)

【児童たちと作った課題解決チャート】

(4) 成果と課題 (○: 成果 ●: 課題)

- 普段自信がなさそうにしている児童が、学級で作上げた課題解決チャートを確認したり、チャートを基に友達からアドバイスをもらったりしながら解き進める姿が見られた。
- チャートを作る際に、全体共有の時間が長くなってしまった。課題解決の方法を全体で共有した後、課題解決チャートの作成については個人で行うようにしたい。

【実践例2】単元3年「あまりのあるわり算」(本時7/8)

(1) 本時の目標

問題場面の余りの意味に着目し、余りを切り捨てて処理する問題を理解することができる。

(2) 手立て

本時のまとめをした後、めあてに対する到達度を「晴れ(分かった)」「曇り(もやもや)」「雨(分からない)」で振り返る。その後、自分に合った学習方法を選んで取り組む。その際、自分に合ったものを適切に選択することができるよう、「天気チェックシート」という図を確認させてから選ばせる。自分に合った学習方法を選択し取り組ませることで、自ら学習を進めることができるようにする。

(3) 実践の様子

教師の主な働きかけ	児童の反応・活動
<p>(本時のまとめをした後)</p> <p>T: 今日のめあては、「あまりをどうすればよいか考えよう」でした。どのように考えればよいか分かりましたか? 「晴れ」「曇り」「雨」で振り返りましょう。</p> <p>T: それでは、自分の天気を基に、「天気チェックシート」を確認し、残りの時間をどのように学習するか決めましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div>	<p>C1: 今日はよく分かったから「晴れ」です。</p> <p>C2: 考え方は何となく分かったけど、まだできるか分からないから「曇り」にします。</p> <p>C3: 分からなかったから「雨」です。</p> <p>C1: 私は、たくさんA Iドリルでたくさん練習問題に取り組もう。</p> <p>C2: 一人では不安だから、友達と一緒に同じ問題をもう一度やってみようかな。</p> <p>C3: 分からなかったから、友達にアドバイスをもらいながらやってみよう。</p>

(4) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 自分に合った学習方法を選択し取り組ませたことで、児童それぞれが学びを確かなものにしようと自ら進んで学習に取り組む姿が見られた。
- 本時のまとめをした後の活動であるため、活動時間を十分に確保することが難しかった。

【実践例3】単元3年「あまりのあるわり算(本時3/8)」

- (1) 目標 等分除であまりのあるわり算の意味を理解し、適応題を解くことができる。
- (2) 手立て

本時の内容が自分にとってできそうか、難しそうか判断し、本時の目標を自分自身で設定する。さらに、目標達成のための学習方法を選択させることで、自ら学習を進めることができるようにする。

(3) 実践の様子

教師の主な働きかけ	児童の様子								
<p>問題 みかん16こを3人で同じ数ずつ分けます。1人何こになって、何こあまりですか。</p>									
<p>※ 問題の解決方法を全体で確認した後、児童自身の習熟度に合わせた目標の設定に移った。</p>									
<p>T: 今日の内容ができそうか、難しそうかに応じて自分の目標を設定しましょう。そして、目標達成のために、メリット・デメリットをもとに学習方法を選びましょう。</p>	<p>C1: 今日の内容は難しそうだから教科書の問題を確実に解けるように一人で練習しよう。 C2: よく分かっているから、困っている友達に教える。 C3: 難しいから友達に質問しながら解きたいな。 C4: できるとは思うけど教える自信はないから一人でたくさん問題を解いて完璧にしよう。</p>								
<p>【学習方法について説明した掲示】</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>【学習方法】</th> <th>【学習教材】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・一人で取り組む</td> <td>・教科書 ・計算ドリル</td> </tr> <tr> <td>・友達と取り組む</td> <td>・ロイロノート(問題づくり)</td> </tr> <tr> <td>・教師と取り組む</td> <td>・キュービナ(タブレットアプリ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 児童は学習方法のメリット・デメリットをもとに学習方法を選択し、学習を進めた。 ・ 学習終了後にはそれぞれの本時の目標に対しての振り返りを学習進度表に記述した。</p>	【学習方法】	【学習教材】	・一人で取り組む	・教科書 ・計算ドリル	・友達と取り組む	・ロイロノート(問題づくり)	・教師と取り組む	・キュービナ(タブレットアプリ)
【学習方法】	【学習教材】								
・一人で取り組む	・教科書 ・計算ドリル								
・友達と取り組む	・ロイロノート(問題づくり)								
・教師と取り組む	・キュービナ(タブレットアプリ)								

(4) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 自分自身に合った目標や学習方法を選択したことで、自ら学習を進めている姿が見られた。
- 本時の目標を設定する際の自分の理解度に対する自己評価が上手くできず、課題が適切に設定できない児童がいた。児童にとって分かりやすい指標や、教師からの働きかけが必要であるとする。

【実践例4】単元4年「面積」(本時4/10)

(1) 本時の目標

L字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の面積の公式を使って求め、説明することができる。

(2) 手立て

本単元の学習の流れがわかる単元進度表を用いることで、既習内容を基に、本時の問題の解決の見通しをもつことができるようにする。

(3) 実践の様子

教師の主な働きかけ		児童の反応・活動			
T:今日は、L字型の図形の面積を求めます。これまで面積はどうやって求めていたかな。 T:このL字型の図形は同じように面積を求めることができるかな。 【単元進度表】		C1:長方形はたて×横で面積を求めていました。 C2:正方形は一辺×一辺で求めました。 C3:このままだと難しそうだな。 C4:長方形や正方形に分けたら、今までと同じようにできそうです。			
時間	ページ	問題	今日の問題	チェックテスト	学習の振り返り
1 No	P2, 3		㉠と㉡では、どちらの花だんのほうが広いか		
2 No	P4, 5	△3	㉢と㉣では、どちらがどちらだけ広いですか。		【A 児の振り返り】
3 No	P6, 7	△2 △3	長方形や正方形の面積の求め方を考えよう。 (たて5cm、横7cmの長方形)		cmは、たて×横に7でできることがわかりました。
4 No	P8, 9	△3	L字の図形の面積は何cm ² ですか。		長方形や正方形になるくも長方形や正方形をつくると同じようにかんがえることが出来ることがわかりました。

(4) 成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 単元進度表やノートを見て前時までの学習を振り返り、問題を解決しようとする姿が見られた。
- 学習の振り返りが、「できた」「できなかった」のように感想だけになってしまう児童もおり、見通しにつながらない児童もいた。

【実践例5】単元4年「2けたでわるわり算の筆算(本時1/13)」

- 本時のねらい 2けた÷2けたのあまりのあるわり算の計算ができるようにする。
- 手立て
本単元の学習の流れがわかる学びの地図と理解度の基準を示したステップ記録シートを振り返りに活用することで、個々が学習状況を分析し、次時の姿まで書けるようにする。
- 実践の様子

T:前回のステップの理解度をもとに、今回のステップのコースを決めましょう。前のステップが途中の人は、続きからの学習計画を立てましょう。

【学びの地図(自分でコースを選択して取り組む)】

ステップ	めあて	☆コース	☆☆コース	☆☆☆コース
1	(2けた)÷(2けた)の式を立てて、余りのない計算をしよう。	・教 104 105(103)①	・教 104, 105①~④	・教 104, 105①~④ ・もっと練 152(49, 50)
計D4				
2	80÷30のような、あまりのあるわり算のしかたを考えよう。	・教 106①~③⑤①	・教 106①~⑤	・教 106①~⑤ ・もっと練 153(51, 52)

【A 児のステップ1の振り返り】

ふりかえり

□あまりのないわり算ができた! □答えは書けなかったが式はたてられた!
□式をたてられなかった。

〈記述〉
も、と、東はできたが、わけてはできなかった。
量が多いから、次は☆☆コースにする。

※児童は選択したコースの学習内容に取り組み、授業の終わりに振り返りを記入した。

(4) 成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 前時の振り返りを基に、自分に合ったコースを選び学習を進めることができるようになった。
- 理解の難しい児童に教師がつき切りになってしまった。教師だけでなく友達とも協働できるような支援が必要である。